

徳山 ユネスコ通信



発行所
徳山ユネスコ協会
周南市岐山通1-1
周南市生涯学習課内
電話 22-8621
E-mailed-shogai
@city.shunan.lg.jp

印刷所 (有)精文社

平和への祈り

徳山ユネスコ協会会長

師井 弘



今、世界は混沌として心休まる時がないと言えます。1946年、80年前にユネスコが創設されました。ユネスコは主に世界平和に貢献する目的で創設された国際機関です。ユネスコ憲章の前文に、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」とあります。戦後80年、これを機に、平和の尊さを肝に銘じると共に、ユネスコの精神である、平和の活動に力点を置き、徳山ユネスコ協会として特に次の三点に注力していきたいと思えます。一点目は「平和の鐘を鳴らそう」は毎年実施し今年で二十五回を迎えま

す。この行事に幅広く皆様が参加できるように工夫改善していきます。二点目は「周南フィルハーモニー管弦楽団」にご協力いただき、九月の演奏会時に平和を色濃く反映して実施いただくことになりました。三点目は新たに「ユネスコ平和七夕お茶会」の実施です。お茶会を通じて、一人ひとりの平和の願いを七夕に高らかに呼びかけていきたいと思えます。以上の三点を重点活動とし、令和7年度、企画運営していきますので、皆さまのご協力、ご援助をよろしくお願いいたします。

平和の島 スピーチコンテスト

周南市大津島にあった回天訓練基地から平和を訴えようと始まった平和の島プロジェクト。その一環で、山口県内の中学生、高校生に平和についての作文を募集しました。その中から優秀な作文をスピーチコンテストとして発表してもらいました。民間ユネスコの理念である「心に平和のとりでを築きましよう」を基に若者が現在の世界情勢を分析し、みんなの願いである世界平和に対し、自分なら何ができるか、何をすべきかを一生懸命に考え、発

表してくれました。大人はそんな若者の姿に心打たれたようです。

基調講演として中村文昭さんをお招きし、何のために人生を生きるかを笑いあり、涙ありの講演をいただきました。参加者のみんなが何か大きなものを心に刻むことが出来る一日でした。

平和な世界を作る小さな一歩

下松市立久保中学校 3年

武智 春香

そつと目を閉じ、風を感じてみる。今、この瞬間、世界の何処かで、戦争によって大切な命が奪われています。二〇二二年二月。ロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。この侵攻は長期化し、二年以上も続いています。イスラエル・パレスチナ情勢の悪化により、今も毎日のように罪もない多くの人々の命や日常が奪われている世界情勢に、私は、悲しさとやり場のない憤りを感じています。

人類は長い年月を経た今でもなお、なぜ世界平和を実現できていないのでしょうか。

人類史上初めての広島、長崎への原爆投下から七十九年。戦争体験者の高



齢化が進み、その体験を語ることで、若者が少なくなってきた中、私たちの世代が直接お話を聞ける最後の世代とも言われています。

祖父の家にいくと、家族が集まるリビングにいつも目にするものがあります。それは、曾祖父が戦争の時に使っていた、一リットルの水も入らないほどの小さなアルミ製の水筒です。色は草色で、所々黒く焦げたような色があり、あちこちぶつけた跡もあります。頑丈な紐が水筒の外側にくるくると巻き付いていて、首に提げられるようになっていて、今でも大切に保管してあるこの水筒は、厳しい戦争の時代を生き抜いた曾祖父の証で、家族で大切に守っています。

私の祖父は戦後生まれで、戦争体験のない世代。曾祖父から聞いた戦争の話を、祖父は私の両親や私に、涙を流しながら話をしてくれます。下松に住んでいた曾祖父は、防空壕に向かう途中に、東の空から光が差しこんだのを見たそうです。その数日後に広島に原爆が投下されたことを知り、背筋が凍りつく思いをしたこと。広島爆心地から助けを求めて、命からがらの思いで山口県までたどり着いた人の話など聞きました。曾祖父は、軍隊に召集されたのですが、戦地に向かう直前に日本が降伏し、部隊はソビエト軍の捕虜になったそうです。極寒のシベリアで過酷な労働を強いられた、想像を

絶する抑留中の話。戦地で喉の渇きを潤したこの水筒が、戦争の残酷さを物語っているのです。

昨年の五月、広島でG7サミットが開催され、各国の首脳が平和記念公園を訪れました。私はその翌日、家族でその会場を訪れました。平和への願いを込めて、記念公園内でソメイヨシノの植樹をされていました。平和を願って、被爆地に根を張り、元気に育っていくといいなと思います。家族でそつと手を合わせました。平和公園のアオギリの木の下で、被爆体験を伝える「語り部」の活動をしている人と出会いました。言葉にすることさえつらくて悲しいのに、このつらい体験と記憶を誰にも、二度と同じ苦しみを味わってほしくないという強い思いで語られる。思い出したくもない地獄の体験を心から絞り出すように。発する言葉を大切に一つひとつ。私は何度も息をのむ。記憶は、七十九年も経った今でも、多くの被爆者を苦しめ続けているのだと思いました。



夏休みには、家族で大津島にある回天記念館を訪れます。二十歳前後の若い方々が国を守るために亡くなられたといわれる人間魚雷、回天特攻隊の悲劇の

作戦は、何度聞いても恐ろしく、悲しい気持ちになります。

戦争＝原爆と思われるがちですが、原爆の他にも悲惨な出来事があったことを忘れてはいけないと思います。住んでいる町、大切な人、思い出の品々、人々の未来への希望、全てを戦争で奪われてしまったのです。

中学生の私たちにできることは少ないけれど、戦争体験者から話を聞き、戦争の悲惨さを後世に伝えることが、戦争という悲劇を二度と繰り返さない、平和な世界をつくる小さな一歩だと私は思うのです。そして、世界で唯一の被爆国として、原爆の恐ろしさを語る責任があるということも。

平和の鐘を鳴らそう

8月15日「第24回平和の鐘をならそう」式典を大津島回天記念館前庭で開催しました。式典には厚東教育長をはじめご来賓、関係者の皆様並びにユネスコスクールの太華中学校と今回初参加の晃英館の生徒、市内小中学校の外国語指導助手（ALT）など約100名の方々にご参列いただき、平和の鐘を鳴らしました。



参加した中高生たちは、式典会場設営や平和宣言唱和のお手伝いなど式典運営に協力し、式典後には回天記念館などを見学することで、平和について学び、考える一日になったのではないのでしょうか。

参加した中高生たちは、式典会場設営や平和宣言唱和のお手伝いなど式典運営に協力し、式典後には回天記念館などを見学することで、平和について学び、考える一日になったのではないのでしょうか。

まもなく第二次世界大戦終結から80年を迎えようとしています。改めて平和の尊さ、ありがたさを考え、行動することが求められます。戦後80年という節目の年となる今年の8月15日は、行政、関係機関・団体のご支援ご協力のもと、より多くの皆様に「平和の鐘を鳴らそう」に参加してもらえよう新たな企画も検討中です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

「平和の鐘を鳴らそう」に参加して 周南市立太華中学校 3年 原田 航

「頼まれたから」「何だか楽しそう」そんな僕の考えを、重く響く鐘の音が吹き飛ばしました。夏休み、僕は友達と大津島で行われる「平和の鐘を鳴らそう」というボランティアに参加しました。そこには、映画の中で見たような回天の模型や発射場、また回天に乗って亡くなったしまった人達の手紙や写真がありました。僕の曾祖父は海軍だったそうです。もしかしたら、皆と見た写真の内の一人になっていたかもしれない。そしてその写真を見ている皆の隣に、僕はいなかったかもしれ

ません。平和の鐘をならすことで、自分

分が生きている

ことへの感謝、

平和の大切さに

ついて深く考える

ことができた。

「平和は

大切」「死ぬのは

嫌だ」当たり前

前の事なのに戦争

は起き、誰かが

死に、苦しんでいます。そ

して多くの人はそれをただ「知

る」だけで終わってしま

います。僕はこの日から、

それがとても悲しい事だと思

うようになりました。世界の人々の平和を心から「願う」

ために、また平和の鐘を鳴らそうと思います。

山口県校ヶ丘高等学校晃英館コース

2年 大原 菜々

私は毎年1回以上大津島の回天記念館を訪れています。大津島は海が綺麗で、春には桜がとても美しく咲き乱れます。とても穏やかなこの島で、80年前に悲惨な出来事があったということ

を今でも信じられません。回天とは、太平洋戦争末期に旧日本軍が開発した特攻兵器であり、人が操縦する人間魚雷です。記念館には魚雷の





ことが大切だ
と思います。
さらに、この
悲惨な過去を
次世代に語り
継がなければ
ならないと強
く思います。
私は今、英
語にも興味が
あり、色々な

レプリカや、実際に攻撃した若き兵士たちの遺書や遺品などが展示されています。特に家族に宛てた手紙が印象的で、10代から20代前半の若い兵士たちが母より先に逝ってしまうこと、母への思いをつづっているものは、読むと思わず涙ぐんでしまいます。
今、この平和な日本があるのは、戦争で命を落とした若者たちの犠牲の上にあるということを重く受け止め、二度とこのような悲劇を繰り返してはならないと強く思います。

また、平和な世界を生きている私たちは、国のために家族と離れて戦争で戦うことは出来ません。だからといって、「生きている時代が違うから」と戦争を無くすための努力を怠るということも違うと思います。

私に出来ることは、こうした史実に向き合い、過去の過ちを繰り返さないように「どうして戦争が起るのか」また、「どうしたら戦争を無くすことができるのか」という事を考え続ける

国へ行ったりすることが夢でもありません。従って、日本だけでなく世界の国へ、この回天の話を語り継いでいき、戦争の悲惨さを一人でも多くの方に感じてもらい、平和の尊さや命の重みについて深く考える機会をつくれたらと思います。そして、いつか人々が戦争は起こしてはいけない、やめるべき事だ、ということ認識し、大切な人が戦争に行かなくてもよい、平和な世界を訪れることを心から願っています。

ユネスコスクール

本校のユネスコスクール活動

周南市立太華中学校 3年

出穂 彩笑

太華中学校は周南市唯一のユネスコスクールとしてボランティア活動を盛んに行っています。地域行事の準備や片付け、清掃活動、小学校でのあいさつ運動など、私もボランティア委員会の委員長として様々な活動に参加しました。すべての活動にやりがいを感じましたが、その中でも、ボランティア活動とは違いますが「平和の鐘を鳴らそう」の活動が強く印象に残っています。校内で参加者を募り、夏休みに回天記念館に行きました。平和の鐘を鳴らし、平和宣言を唱和する中で、改めて平和の尊さを感じることができました。毎日幸せに楽しく過ごしていることへの感謝を忘れず、日々を大切に過

ごしていきたいと思います。

校内では、ペットボトルキャップの回収を行いました。全校生徒で協力し合い、約38000個のキャップを回収することができました。ペットボトルキャップアートを作成して文化祭で展示し、その後は周南市役所のリサイクル課に持っていきましました。このキャップで利益を得て、ワクチンを買うことができると知りました。私たちの活動が、世界中の子どもたちの命を救う助けになればと思います。

ユネスコスクールだからこそ知れたことやできた体験が多くあります。これから活動が続けていき、また、これから入学してくる後輩達にも活動を引き継いでいってほしいと思います。

英会話教室

楽しく学ぶ英会話

沖 博子

「英語を話せるようになりたい」という長年の目標を達成すべく、一念発起して英会話教室を探していた三年前、徳山ユネスコ協会英会話教室を知りました。

初めて体験レッスンに参加した日の驚きは忘れられません。そこでは、年代も様々な人達が、生き生きとそして楽しみながら英語を話していました。自信はありませんでしたが私も是非とも仲間に入りたいと感じ、入会を決め

ました。

最初は、毎回一人ずつ発表するトピックスが苦手で、準備に時間もかかり、当日は原稿を読むのがやっとでした。フリートークキングでも、うまく喋れずに落ち込むことが度々ありました。でも、時

間が経つにつれて肩の力が抜け、徐々にではありますが楽しめる様になりました。何より、毎週英語を話せる貴重な機会を得たことに大きな喜びを感じています。

そして、この教室で出会った人々との交流も素晴らしい収穫です。みんなで切磋琢磨しながら、英語力アップを目指していきたいです。

ユネスコ英会話

江村 静枝

私がユネスコ英会話教室に入会したのは約四半世紀前のほぼ子育てが終わった50代の頃でした。周南市広報に載った「ユネスコ英会話生徒募集」を見つけた。その後ネイティブの審査を受け4月から「初心者クラス」に入りました。

最初の担当先生はミセス・テリーフ イッシュという当時40才位の二人の男の子の母親で岩国基地内の住宅から





通っておられました。彼女はほとんど日本語が出来ず、私も全く英語が話せませんでした。しかしながら気持ちが通じ合う事は言葉以上の何かがあると実感しました。ミセス・テリーフィツシュに会えた事が長く続いている英会話の源です。

それともう一つ「私のやる気」を起こした出来事がありました。それは娘のイギリス留学が終わりに近づいた頃にイギリス観光旅行を計画しました。初めて夜行列車に乗り、ロンドンからスコットランドまで北上してレンタカーを借り湖水地方など美しい地方を巡りました。それは超たのしい旅行でした。ただ一つを除いて…。それはシエイクスピアの生家を見学した時、ボランティアの人が説明してくれましたが彼女は私を除いて妹と娘だけに説明をしていました。その時のことは今でも忘れません。その悔しさを胸に一念発起して始めた英会話教室も25年くらい経ちました。あれから4年前のコロナ禍を除いて毎年ヨーロッパ旅行を楽しんでいます。もちろん旅行中は現地の人達とたくさんふれ合うように心掛けています。今日に至るまで、たくさんの仲間がいろいろな



理由で去って行き寂しくなりましたがその代わり若い仲間も増えました。私もみなさんと一緒に日々精進して行きたいと思っています。私の座右の銘は「継続は力なり」です。まだまだ私は自分の人生を楽しむつもりです。



正しく理解し、お互いの人権を尊重するとともに、命と平和の大切さを認識しよう」というテーマで開催されました。

当日は、紙芝居、DVD視聴・人権相談そして、児童対象の塗り絵やシールアートなどもあり、多くの親子のみなさんが参加してい

見て！感じて！
人権オープンシアター

令和6年11月17日(日)「周南市並び・交流プラザ」で教育委員会人権教育課主催の「人権オープンシアター」が開催されました。これにはユネスコ協会もお手伝いとして参加しました。この会は「様々な人権問題について



また、ユネスコのパネル展示やユネスコの活動の動画を紹介しましたが、多くの参加者が見入っていました。

周南市戦後80年事業

周南フィルハーモニー管弦楽団と徳山ユネスコ協会の共同企画演奏会

令和7年9月20日(土) 14時〜16時、周南市文化会館で定期演奏会を開催します。



周南フィルハーモニー管弦楽団はウクライナでの戦争が始まって以来、常に世界の平和を願いながら演奏会を開催し、世界共通言語の音楽で「心の中に平和のとりでを築こう」と活動しています。

この演奏会に参加してみませんか。ユネスコ協会はチケットを斡旋していますので、希望される方は事務局にご連絡ください。会員以外の方、お友達等にも呼びかけをお願いします。

いなかの学校

周南市立菊川小学校 6年

坪井 廉太郎

先日、田舎の学校体験に行ってきました

した。行く前は、知らない人が多くてとても緊張していました。しかし、バスに乗って福田フルーツパークに向かう途中で、数人の友達ができました。現地に着くと、たくさんの方がいて、「こんな中で友達を作ったり、上手くやれるかな」と不安でした。しかし、ツリークライミングなどの活動をしている間に緊張が解け、元々の知り合いを通じて新しい友達もできました。とても楽しく過ごすことができました。

1泊2日の日程はとても充実していて、自然と触れ合う機会がたくさんありました。行く前は自然にあまり興味がありませんでしたが、帰る頃には自然に興味が湧くようになりました。自然はただあるだけではなく、共存の仕方を学ぶことができ、成長を感じました。

この体験を通じて、新しい友達を作り、自然の魅力を感じることができました。また、緊張や不安を乗り越えることの大切さも学びました。この田舎の



学校体験は、一生忘れられない思い出となりました。

周南市立秋月小学校 5年

土屋 旺佑

初めてキャンプに参加して、アーチエリーやソーメン流しなど色々な経験をしました。



野鳥観察では珍しい鳥も見れました。イルミネーションもとてもキレイで心に残っています。寝る前にトランポリンもできて、テントでぐっすり寝れました。どれも本当に楽しかったです。



最初は友達ができるか心配していたけど、一緒に行動する中で

みんな仲良くなれました。別れる時とてもさみしかったです。また来年もキャンプに参加して、みんなに会えたらうれしいです。

ユネスコ冬の自然体験

毎年開催の周南フレンドパークにて冬の自然体験を2月16日に行いました。今年もたくさんの子供たちが大きなク



スノキにロープをかけて登りました。最初に木に挨拶をして、木のマネをするモクモク体操をします。体があつたまったところで、いよいよ登り方を教わって、登り始めます。自分の力だけで一生懸命に上を目指して登ります。高いところまで登ったら、ゆっくりと周りを見渡して景色を楽しんだり、鳥の気持ちを感じたり、植物を観察したり、周りの友達を励ましたりと自由に時間を楽しみました。

ツリークライミングが終わると木工体験もしました。たくさん種類の樹種から気に入った木を選び、ひたすら削り磨き、世界に一つだけのマイ箸を作りました。

冬の公園でこんな自然と触れ合うさやかな体験イベントです。親子で一緒に楽しめるので次回は皆さんも参加してみたいかがですか？

第71回 山口県ユネスコ大会 10月27日萩市で開催

1951年（昭和26年）第1回、県内9つのユネスコ協会相互の連携強化と、地域社会に根ざしたユネスコ活動の発展を目指し開催される歴史ある大会です。

大会には、県内各協会から総数82名が参加、徳山ユネスコ協会から7名が参加しました。

大会では、新ためてUNESCO憲章の理念に基づき、国際的な視野で身近な活動を行い平和の礎を築くことを参加者全員で誓いました。

記念講演では「我が国の世界文化遺産登録の歴史的経緯と萩の明治日本の産業革命遺産の登録」と題し、元萩市長の野村興児さんから約1時間お話をいただきました。

また当日に、山口県ユネスコ連絡協



議会からユネスコ活動功労者として武居清孝さんが、徳山ユネスコ協会理事・副会長として長年の活動が認められ、表彰されました。

国際支援事業

世界寺子屋運動

徳山ユネスコ協会では、書きそんじハガキ・未使用切手・テレホンカード等の収集事業を継続的に実施してまいりました。

世界には、いまだに学校に通えない子供や、読み書きの出来ない大人たちが、沢山いるのです。

そのような人達のために、寺子屋ほどの学校を作って、教師の育成をします。子供達は、読み書き・計算や、衛生教育や集団生活等を学びます。

大人には、裁縫・刺繍・農業・畜産の技術研修等の職業訓練をして、収入向上を目指しています。

【現在の活動地】

※1ドル150円計算です。

カンボジア	ネパール	アフガニスタン
ハガキ12枚でひとりひとりがひと月学校に通えます	ハガキ2枚でペン3本になります	ハガキ2枚で消しゴム3個になります

公益財団法人 日本ユネスコ協会連盟

令和6年度

書きそんじハガキ	841枚	
未使用切手	911枚	
未使用テレホンカード	3枚	
合計	80,500円	

この様に国際支援事業にも大いに支援しています。

最近では、SDGs運動も広く知られて来ましたが、目標（ゴール四）に「質の高い教育をみんなに」と、提唱されております。



女性部・バザー店

令和6年5月3日、「まんどころ来てみん祭」の会場で女性部がバザー店を開きました。会場内の呉服店をお借りして、手作り袋、衣類、タオル、その他いろいろです。

はじめての女性部バザー店でしたが、天気にも恵まれ大勢のお客様が来場、みる間に完売で皆様大変喜ばれていました。今年も女性部一同頑張ります。ご協力よろしくお願い致します。

日本国内では、災害により孤児になったり、貧困のため学業も満足に出来ない生徒も、支援しています。

今後も、近隣の知人・友人に広く声掛けして下さって、この寺子屋運動の持続発展のために、お手伝い下さい。

令和6年度にご協力いただいた総ての皆様に、心より感謝申し上げます。



こども食堂

「こども食堂」
「笑く咲くplayceサササプレイス」を通じて

徳山ユネスコ協会が後援することも食堂「笑く咲くplayceサササプレイス」が令和5年10月からスタートしました。山口県初の大学生が運営することも食堂は、周南公立大学の藤原一花さんが、大学の授業でこども食堂を知り、大学生とこどもが交流する居場所を作りたいと仲間呼びかけで立ち上げられました。毎月第2日曜日に周南市秋月地区で開催されるこども食堂では、大学生自らが企画したゲームや献立と一緒に遊び、お昼ご飯を食べて交流を深めています。また、師井会長をはじめ役員が参加して活動を見守っています。笑顔の絶えない幸せな時間を共有し、次代を担う大学生と小学生が共に地域の中で成長する居場所であるこども食堂を後援し支援することは、平和な地域、平和な世界へとつながる活動としても意義ある取り組みだと思っています。藤原さんが蒔いた種を大学生と一緒に育て、たくさん笑顔の花が咲くこども食堂をこれからも応援したいと思っています。

周南公立大学 3年

藤原 一花

私たちは2023年10月に「笑く咲くplayce(サクサクプレイス)」

として子ども食堂を初開催し、毎月大学生ならではの企画を実施してきました。周南市にちなんだオリジナルすごろくやクイズ大会、こいのぼり、てるてる坊主、七夕短冊、スイカ割り、ハロウィン、落ち葉のしおり、クリスマス、餅つき、羽子板づくりなど様々な体験を通じ、子どもたちと共に学び、楽しむ場を作っています。

この活動を通じて、企画の立て方や進め方、一人ひとりに応じた子どもとの接し方を学びました。また、子ども食堂は子どもと大学生の交流の場であると同時に、大学生同士の絆を深める場にもなっています。

毎月お花を届けてくださる花屋さんや手作りケーキや食材を提供してくださる地域の方々など多くの温かい支援に支えられていることに感謝しています。

今後は、資金面での自立を目指すとともに、イベント参加など活動の幅を広げ、より多くの人と関わり、たくさん笑顔があふれる子ども食堂にしていきたいです。



能登半島地震「災害子ども教育支援募金」の報告

昨年発生した能登半島地震は大きな被害をもたらしました。その被害は小中学校等の学習環境にも大きな被害がおよびました。このことから、徳山ユネスコ協会は市内の各小中学校、各公共施設や各種団体等に募金呼びかけ被災地の子どものための支援を行いました。1月から6月までの期間で、小中学校や各種団体から四十四万四千九百五十円が寄せられました。ありがとうございました。

後日、日本ユネスコ協会連盟に送金いたしました。

この度、周南市役所生涯学習課のホームページの中に徳山ユネスコ協会のページを作成しました。(令和7年3月10日から公開中)二次元コードからも閲覧できます。



編集後記

昨年まで徳山ユネスコ通信は4ページで編集しておりましたが、今回提供する情報が多く6ページの構成となりました。

記事の中で児童・生徒・学生の学年は、行事に参加した当時の学年です。たくさん原稿を提供いただきました。

令和7年度は、7月にユネスコ平和七夕お茶会、9月に開催される周南フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会は、戦後80年平和を願うとして、徳山ユネスコ協会共同企画で開催。など新たな企画が計画されております。従来の各事業と共に、皆様のご協力・ご支援を得て徳山ユネスコ協会の活動が活発に進められる様務めてまいります。